HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第10巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1961-02-09
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77617
Type	manuscript
Note	国民社会の観点よりみた都市機能 : 都市農村の機能論的考察 第1巻 『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	I013_0110.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10

久美堂特製
¥20

M特
20

15

NOTE BOOK

Made of paper
Specially prepared in Japan

國民社會の研究
第十卷

昭和三拾六年九月二日

A—NO.8 MUSASHI

10

◎支配と従属の関係

a 従属 ― 支配主体の存在しない従属

b 支配 ― 従属主体の存在しない支配

c 搾取 ― 支配と従属の存在しない搾取

統治活動は最上部から統治機構は
統治知識と統治理念
統治の原則
口家統治と制圧(威)
都市結合の機能と制圧(54)
口民等の社会的実践性と
有する
◎口民等内における支配関係
口家制度と従属関係
口民等心的状況と
生活構造の構造
近世社会人の構成
口家族的な構成の流動と
都市化社会故に有する
スラムの聚落的系譜
口民等内の従属の様式の型
口民等構造の変動

46 50 49 8 35 34 23 21 16 14 14 12 9 8 5 1

統治活動は最上部から統治政策は
最末端かし
統治活動は被統治者に有益でなければ
ず、最上部でその思わかなかに関係さ
れる。けれども統治は被統治者からの
この統治であるから被統治に接触し
なければならぬ。接触するのは統治機
関の末端部であるの。
最上部での統治方針がいつでも実際
なく実施されるから被統治者との接触
は考えられないとも言へる。そのな
考へかたから統治政策を最上部か
ら決解しようとするのも一理あるが

1

あり。けれども、支配者のねらいは、しかするとも明白にせず、最下部で接触する統治者の構造の即ち民衆が一つ一つに最上部に支撃すかし知れぬ。民衆はやはり石ではなかったのだから、その時知ったであろう。けれども民衆が死を賭して反乱を企てた最上部はなくなるのではなくして、別の人々が別の方針をかかげて又最上部につく。民衆を統治する。統治文化などのものは恐らく永久に消えないのかし知れぬ。統治の構造統治の方法がそのまゝに強く変ってはなく

統治者群の中の大部分の人はもかわ
らないかも知れぬ。官僚と呼ばれるもの
が多くである。口民が死を賭してかち得
た政権は最上部の人の移動か
政策の一部分だけかも知れぬ。
統治機構は名のみに過ぎる。従中
年来統治の組織も統治の機能
も変らない。
新連邦も不動も共和制も
口民の側からみれば強者同一の
の、猫か虎や獅子か代れも
皆いつくこわいものであるのは同じ。

口民は統治されるだけでは
有ったのか。
虐げられてあっても
他口の虐げは小さいほうがよかった。
他口の虐げは
他口の虐げとなっていた。　難民
の期待をまこうとしていた
元がないうなのである。
来口民は出稼ぎ
ずから立ってるのを見て
だから口民が毎年
国営しるべき
なすべき選択しかなかった。

出稼ぎ
毎年
自分の仲
達
就労として第一。
統治文化は

統治活動と統治政策

統治活動は統治者が行う活動である。統治政策は統治者と被統治者の間のやりとりである。

民主主義は重要な意味をもつものは統治政策であって統治活動ではない。統治活動は統治する人々が勝手に行う彼等の活動である。

それが、民衆の身に及んで来たときはじめて民衆にはすべておけないものである。統治政策の正しい理解こそ民衆にとって必要である。

中央で出来た命令を全国民にもれ

なく、他へ、金口民からもれなくその反作用を受けている仕事をはたすのが統治部の責任である。

一人一人に責任を他へ一人一人からその反作用を受けるそのうけわたしの操作が統治部である。

中央の責任を金口民にもれなく他へ金口民から反作用を受けている

様にお膳立てするのが統治部である。その為の組織が統治組織である。行政治部、行政組織をもって

よい。ここでは命令を配分する

上からの下の方に

組織に

6

の操作があるばかりである。

（反作用の結果を下級官吏に及ぼすように上級官吏に伝達する操作）

この操作を一般に伝達と言う。各省大臣官房に於ける市町村行政指導までの行政活動が含まれる。

二六九三

立法府は議院で議員は国民が選挙したのであるが、国民は官僚が作を選ぶ自由がないことが、なのは国民の代表と称されている。

経済の原則

今日までは経済の最上部をなして、
国民経済の方針の決定者命令者
の作成者は議員であるが、議員で
の命令作成は次第に忠君愛国
の道の理性的具体策を作ること
であるが、今では愛国民を
の道を忠君の道に変せないことを
原として理性的方策をたてること
です。

国家統治と制圧（威）
都市の結節の機能と制圧（利）

統治と制圧は不分分のものか。同様に都市の結節的機能と制圧とも不分分のものかどうか。

換言すれば、統治すると威圧する事とは必然的に結びついているものかどうか。

又社会的流通の結節となる事は有利であると共に威圧であるとも必然的に伴なわしめてあるかどうか。

統治と都市も威圧と有利なる事とが同じ様な性格のものであるか。

（所詮は異る。両者同一の

特権
階級は制圧するようである。
制圧の点において都市と□実は
極めて類似している。
上級都市はその周囲の農
村に対して威信を誇示する
ものである。都市とそれ統治機
関とそしてその結果した力が散発
的な闘争に対する防衛をもっているので
うかの。都市と□不し結果した
力がそこにあるところに威力を
っている。
足を統制や連盟の中心に近い者殺

威法なり有形であるのは、古代帝王の時代からのよくない習慣である。都市は人間のような器官の役を果たしているが、故に有形であり、役人は統治の役のみに威力をもっている。

12

□民法第九十六条の問題性について

9

日民社会内における様々の支配関係
国家そのものは統治支配の関係に
外ならない。国家統治の活動は純域
的上部構造は上級の統治者を
統治支配する周辺活動であり下級
域的下部構造即ち統治の末端に
おける活動のみが統治者が国民に
対する統治支配の活動である。
国民社会内の支配関係はそれ
ぞれの統治活動に平行して発生し発
達している。統治活動が内部の支配活
のヒナ型である。又それぞれの社会単位
支配の活動のしるしである。最後には

支配と位階と階級の関係

(1) 支配は階級を伴はないものもあるが階級を伴はないものもある

(2) 支配は階級を伴はないものもある

(3) 支配は階級あるものもあり階級なきものもあり

位階は階級あるものもあり階級なきものもあり

位階あって支配あるもあり

位階あって支配なきもあり

位階はなくして支配あるもあり

15

暴力によって確保される。上級支配は中式より高級所得と支配の実力を有する。

四、民族内の支配関係の変化なるものは

一、統治支配

一、農作支配職場支配

一、命令支配

一、男女支配

一、軍人階級

一、都市の官吏支配

一、各種身分特権（家族内位置、職場内位置、官吏内位置、職場内位置、家族内位置）

□家制度は家族制度であり、家族制度は家族主義に割り切れる。

要は統治支配の外には、家族或は国民個人による支配と社会的身分支配とが併存するだけで職業的支配が強かったものと思はれる。

軍人支配は統治支配そのものの共に一つの職業的支配と見ることも出来る。

本来政治は公民経済生活の上に過ぎない。平和の安寧を保つ事である。都市の農村支配は公の為に地ばれて居る。

最高経済生活の眼中には公民は常に

金さえ出せばとして解放されたので、農民の統治者の力は弱と同じとならず、農民を統治する力を如何に統治するかが常に問題であった。統治組織は統治する人々の間の組織である。農民は独立自治の上級力として解放されたのである。

法律は第3章に統治者の間の秩序を規定する。

農民に対しては法律ないしきまった。

以上の如く他の立憲国体に対して日本国の国体を擁護して来た。下が上に

性をもとめる要求はあくまで強まって来た。
国家経済は最終には武力によって
決定する。下は上に絶対服従することを
求める。国家内の諸階級を
守ることであると同様に新
しい事実。上が下に対してよくく不
合理な人間の取り扱いをつくしたと
しても之のみでは不合理である。
を意味しても下が上に反抗する
以来力を用いることは非合理として
遠ざける。国家は事に上にある人
の働いた四つの道徳法が上にあるとて

まず。貴い陛下に手を出せる者なんぞ
だけであるが、今日では百姓以外の
各種の人民をかかはらず統治するには
税法が有効であり、それはなるべく少
り統治者は被統治者を考慮する
になれていると、又言れている。
政治者とは人民を人民をへとして
為ち、人民を搾取によって
一般に統治しなくとも人民をたすけ
法は色々心得ている。今日の政治の
基礎は色々に対する態度ではなく
なし第一子供として人民に接している。

はれども統治の手段における統治者の
治部は無大抵では反対つて多つて

a. 家族と世帯
自然村と職場
b. 生活地区

第二部 農村における場合
a. 社会構造 — 世帯と職場
b. 生活構造 — 世帯 — 第二生活地区

第一部 農村における社会構造と生活構造の根拠
第一部 農村における場合
a. 社会構造 — 自然村とその家族
b. 生活構造 — 世帯 — 家族 — 自然村 — 田舎町

を担当する代官を
郡代と称した。
西摂の藩は、尼崎藩をはじめ
大名領下である。藩の場合も同
じ形。

代官の事務は

公事方（裁判警察）

地方（財政その他）

に大別され、村役人を通じて
民政一切を司った。その権限は甚大
知行所においては、その役目を果たしたのは
その実務は村役人に委ねられ
さればこそ旗本領が多かった。
二百石にも及ばぬ旗本知行
における農民統治の機構は
その実態は大たい未発達している。△

1、村落は [illegible]
2、代官 [illegible]
3、組村――村

[illegible]

営んで来つつあるものとして（?）[illegible]に
これは
支那史の所謂中心[illegible]たるもの
常に知識階級[illegible]
続[illegible]政[illegible]
若しくは直接間接に国民政治を[illegible]
統一し指導[illegible]
して来たのであり[illegible]国民を
統[illegible]一[illegible]人[illegible]最高[illegible]
占め[illegible]
中の人は武力時代に[illegible]
経済[illegible]大いなる[illegible]。自覚[illegible]

の遊カてゐる放きてゐるの子曰豊
かりの一寸開いて居ない二つ折に
は終えとして代の事業教育に付
しての頭なか。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

書こうか。

日本は無いは日本語の大学の
のあに現花を蝶蝶にしま花孤
しあなに戻りしたりされかか
時事のあれ現花を様特はさ
ようはさけ外ようか。

創新計画事のあに我在が蝶
蝶にされようはが何に刺獣さ
ルしか

宗教的なものとしての同家なる輪部集団
オッペンハイマーの輪部集団は主に
ド、新族、同家を意味し、全体
的なもしくは綜合者のあり様
を意味している。渡辺、関口など
の共通による共同生活の単位となる
法律、宗教、学問、芸術、その
実結晶が外部に対して政治的に
一定の輪郭を形づくっている。

(特典 P942)

同家は古典的輪部集団である。
故に同民社会も輪部集団で
あり、同員社会は定地に同家の
上に構築されているものである。

日本政治学者の論説と私見

日本思想論へ関して余は被支配者の観点よりも支配者中心か否かについ支配者の層についての説を問題とする。

支配者の中に於ける全体に反対す。

日本多民族の説に対して経済集団とその他日本の他の集団とは全く異った強力な集団として区別に比較的その主張をする。

オッペンハイマーの輪郭 集団としての日本に対しては、日本が輪郭集団であるから日民族を輪郭集団である事を示さんとの外部へ……

95

36

37

[illegible]

柳和尚は何故に存するか

この難問に答へる為には、何故に生物に生命があるかを考へなければならぬ。生命とは何か、生命はわからぬ。神秘なものである。生命を分析して生命を知ることは出来ない。

生命は作りかえられるものである。生命の一部を取り出して、一部を変化することは出来ない。

生命は人為的に作ることは出来ない。生命そのものは何かわからぬ。生命のうごきや働きはわかっているが、その中にあるものは生命の根源は何であるか、生命に近代があるかわかっ

さて、人孔に近代があり、その
歴史の文化に発展があり
自覚があります。何ですか。
期待は何故にあるかは、
人孔に近代があるからであると
答えるより外はない。何故に
人孔は近代があるか。生物に
近代があるから。何故には動物
に近代があるか。それはつまり
生物の機能に近代があると
收かあるかと。何故にそれが
收があるか。それは何か。

自然科学とは、試験管の中に
生命学の中の一つを作りお
すねまて仕分しめ。文化科学とは
そんなものが出来ぬ。
生命を作り出すことは生命以
外にはない。この生命の人が知る
あの道ってそこはかとない間は、生命は
進化の一路をたどりくるいの世界に
変ずる。
生命科学が有ってもよろう。
人が
武器をまっしぐらに進むべく。
あ、申さば命は進化の一路をたどり
人の世界は
科学化がつづいて進むべく。私は

ここで失礼ながらコントの知識をもう少し豚つあるよ。

（十月三十三日）

この頃は思いの外な学者方の都市化についてのシンポジウムで未解決になったものであるからここで答へて見るのである。

スラムの東洋的系譜

戦前大阪の川筋で見た小屋掛、
の図、北陸の侍部落。
大阪市内のスラム街。北陸の
スラム街。名古屋のスラム。
市城の工業民、北鮮の火田民
。春窮民と南鮮事中の
同家の窮民のベストワ。
窮民は皇を此サ山にかくれ
ヨか、都市の不用地にすみ市民
の廃物によってなさるか。
山窩は山にかくれる火田民と同様。
42火田民は粟稗は強ずるが、山かは

手仕事を営み、工業的商業的で都市的である。傘の修繕やトギやは近代的。札幌の特殊産はハタヤかるく遊興費の猟銃をあさるものが多い。

大阪の窓掃や商家の（広告を隠した）叮でしばしばやかる。

都市の生産者は都市の清掃でもある。ハタヤかハタは利用しなければ海に流してしまう。煙につしまう。人の世のモノである。それをテイネイに整理して利用し活らの優位の最初の一片し人の世に役立てるのがハタヤ

ある。ハタヤの仕事は人の世に必要である
から、すくとい立て、花咲いているから、
彼等に月給を支拂、よい生活をしの
よい居住に住ませようよ。ハタヤを
なくしてしハタヤの仕事は強かしなければ
ならぬ。彼等の敵人がすべしなければ
ならぬ。だからハタヤを彼等の
やとうよう。

所謂先覺者から出かから昔から制度の
所謂先覺者は先覺者ぶいて、土地の
民の先祖をつくるものの今の兵隊の先祖である。
火田民の先祖が。サンカはこれ者の
をつくるもの

るのであろう。

今日の日本の新聞記事などはスラムを

さえも

アメリカが本場だとしたものか、
アメリカの都市のスラム対策の研究に力を入れ
東洋のスラムの実態を見ないで、
理解の
でなく、東洋の都市のスラムの
東洋の特殊の実情に即した
ようにすることが最初に必要の様に思
和。

一〇、二三、

45

日民社会研究班重要項目

一、定結的要の理論と日常起居の量の理論

一、系統的構造について未端より

イ、末端の構造

ロ、末端の構造

ハ、その上司行政機関に命令する

二、系統的命令を発する定相の拡

ホ、末端の構造

ヘ、

ト、

チ、上部

上行政機関ハ命令するもの。
具体的すなわち、分ルツバ、命令成
（之発達までの組織と分布
（全局中をわたる覇力調査権
行政の分ルツバ）

リ、教育機関

ヌ、官僚組織と活動

オ、統治の原則と革命の前後
における統治文化の継承

ワ、君主制と民主制

二、口民の構造

a、人口配置構造
b、機関配置構造
c、村落都市の配置構造 別と
d、集団累積形態（関与圏）

関与圏

機関と

四 国民生活活動

a 地域と家族
b 一生活地区（部落）
c 国民生活活動の活動
d マス媒体

三 国民生産活動

a 国民の産業別職業別人口
b 職業別分業と分担関係
c 職業別の構造と活動
d 生産物と生活物資
e 教育

五 国家政治活動

a. 法令
b. 公共機関の内容
戸籍

— 未終まる 敬察

ホは保護
コは検索

ホ、コ
ホ、コ
ホ ヘ
コ
コ
ホコ

ホ、
◎ 生存の安易・拡充（医・衣食住・近代以上家が
助・防止
c、治安
d、~~教育~~
◎ d、産業援助
e、文化の整備
f、法制と司法
g、対外活動
h、口家は所有口民を拘束すると共に保護しているもの

六、口民より口家
a、口民は皆意[illegible]集まりて[illegible]
b、生活の内に口家の存在を意識する時
c、口家に対して義務を感ずる時、義務と
成する時
d、口家を求めるか、不満を感ずるか。
e、口家を持たぬ口民
f、口家は口民を保護すると共に
g、抗する口民の心理
h、流民の存在
i、口民の侵略[illegible]覚 中

上下の協力　主従関係
公私の協力　対立
文化の協力　個性尊重、自由な協力

司令本部と戦闘部隊との協力
上官と兵の協力
本部と支部の協力
都市と農村の協力
資本家と労働者の協力
教師と生徒との協力
老人と青年との協力
夫と妻の協力
親と子の間の協力
新旧の間の協力
保守と革新との協力

（命令組織）　階層組織（身分）
階層組織、官僚組織

国民協同体の協力の様式（その型）

国民協同体の
様式の協力の形式をその時々に現わしその時の
秩序を維持し発展せしめているのか［illegible］。
秩序はすべて、おいても自然に保たれて行くと考えるか

今人

甘いものではなく、すきあらば学の独善を独善とわ
各方面に常に存在している。だから学の独善を守るべ
に絶えず積極的な活動があるべきである。
そんな積極的な活動を学んでいるのが統治活動
である。
統治活動が申しわけ程度に混乱が生起してく
る。
故に国家の活動は過去何々年来、皇室を
なくゆ要つまり。古いは代制度が統治の主体
をなしていたが、近代化するにつれて道
理の組織であ
る法律が主となっている。